

2024 年度第 1 回八王子市障害者地域自立支援協議会就労支援部会（定例会）【記録】

日時：2024 年 6 月 12 日（水）10:00～12:00

場所：オンライン開催

出席：江村委員、大山委員、韓委員、依田委員、丹澤委員、野路委員、
小坂委員、森川委員、氏平委員、障害者福祉課**1. 開会****2. 今年度の部会活動について（年間計画に沿って説明）****3. 各機関の概況、昨年度の支援状況、地域課題について～各委員からの近況報告****【法改正に関して】**

- ・法改正に関しては、今後情報を得ながら進めていけると良いのではないかと。どの自治体も同じ状況と思われる。

特定短時間雇用については、企業がまだ興味を示していない。支援機関から案内したいとの思いがあっても、企業側の構築が必要。業務の切り出し方も工夫が必要。今後、ネットワークの構築も必要ではないか。

【学校】

- ・不登校の生徒が増えており、また、卒後、自立訓練（生活）を使う人が増えている。
- ・全生徒が就職を目指して入学するが、メンタル的な課題がある人、不登校の生徒もおり、一定数は卒後福祉サービスを利用している。

就職者も全員が順風満帆というわけではない。高等部 3 年間で課題に取り組みながらも、元々小学生段階から同様の傾向が見られる生徒も多く、早い時期から対応を考えていく必要、つなぎ目のない支援が必要で、また、学校だけの解決は難しい。就労、学校という形が合わない生徒が増えているように感じる。

【高次脳機能障害の方について】

- ・高次脳機能の方の相談件数は年々増えており、中でも 40～50 代の相談が伸びてきている。働き盛りの方の支援が中心になり、復職支援がメインになっている。また、失語症者の支援者派遣事業を開始している。

【就労移行】

- ・一旦就職したが退職し、再利用する人たちが増加傾向。就職者の福祉との併用については、現在 B 型と併用している人、また、今後予定している人などがいる。
- ・就職者の増加に伴い、定員を割っている。市内の移行支援事業所が多く、全体的にご利用者の確保が大変になっているが、決して良いことではない。
- ・就職者が出た後の補充がかなり厳しい現状もある。大学と就労移行が提携する事業所もあると聞いている。

4. 法改正～特定短時間雇用と就労系福祉サービスの併用について

八王子市：今後の支給決定については、厚労省の文書（障発 0329 第 7 号 令和 6 年 3 月 29 日 就労移行支援事業、就労継続支援事業（A 型、B 型）における留意事項について）に沿って行っていく方針である。

今後、様々なケースがあると考えられ、就労している人や企業の状況などを勘案しながら個別に検討していく。必要なケースがあればまずは個別に相談してほしい。

5. 閉会

2024年度第2回八王子市障害者地域自立支援協議会就労支援部会（定例会）

日時：2024年10月16日（水）10:00～12:00

場所：オンライン開催

出席：江村委員、大山委員、韓委員、依田委員、丹澤委員、野路委員、
小坂委員、森川委員、氏平委員、障害者福祉課

1. 開会

2. 就労支援者連絡会活動報告 *概要説明、出席委員感想

第1回「法改正について」等（7/10）

- ・併用については、企業などにまだ浸透していない。支援機関も温度差がある。制度の活用はこれからではないか。事例の積み上げが必要だろう。

第2回「支援者（送り出し側）の支援」（9/18）

- ・手帳が無い人への支援は、まずはサポートの在り方について、意見交換ができたと思う。
- ・医療との連携については、ワーカーのサポートがあったり、病院が積極的だと好循環が生まれる。クリニックは同行を望まない主治医など難しさがある
- ・SWがいる病院は連携がしやすい。高次脳機能障害の人の場合は、リハビリセラピストなどを窓口として利用するのも良いと思う。主治医は、非常勤の医師もおり長時間病院にいるわけではない。長く病院にいるスタッフを窓口にして経過を伝え、電子カルテへ記入したうえで、当日主治医が読んで対応できるようなやり方が良いと思う

3. 「地域課題について」*現状について意見交換

～八王子市障害者計画・第7期障害福祉計画より

【個別支援計画の活用について（学校）】

- ・教員により、生徒の進路指導に取り組んだことのある教員は書くのに慣れているが、教員によっては、就労に向けた内容が難しい。会社の合理的配慮などにもつながると良い。
- ・本人・保護者共に、近い将来への希望がイメージできないことが多い。生活や余暇の充実についても、具体的なイメージが弱いと思う。

【計画の内容について】

- ・ナカボツセンターの支援の状況では、就労困難者、生活困窮者の層がかなりの割合を占めるようになっている。委託費についても、生活支援の部分で増額を要望している。生活支援に関する内容も、計画に入っていると良いのではないかな。
- ・生活課題のある人は、企業よりはA型を選択される傾向がある。特に八王子はA型が多い。今後、最賃が上がり、A型も厳しくなっていく時に同様の状況が続けられるのか、また、難しくなる時に働く人の相談を受け止められる場所がより必要になると思われる。

【求人情報の共有について】

- ・情報を頂く時、実習の可否、環境、障害者雇用の経験など詳しい情報が得られると有難い。
- ・実際は障害者雇用への理解が不十分な企業、定着支援の訪問を断られる企業など様々。そのような生の情報を知りたい。
- ・中小企業を電話などで開拓するが、難しい。興味を示す企業に移行を見学してもらったり、啓蒙活動する。個別対応になり、ネットワークの中での同様の取り組みは難しいとも思う。
- ・啓蒙、理解推進などは必要だが、業務量的に辛い状況がある。福祉施設のニーズを思う一方、雇用率が足りない企業への対応で、現状は精一杯になっている厳しい状況がある。
- ・ハローワークの調整で企業の学校見学を企画、その後の取り組み方は企業それぞれである。
- ・移行見学の企画をすることは、移行の規模などもあり難しさがある。ハローワークから個別の案内は行っている。

4. 閉会